



みなみいず 議会だより

No. 18

2004年(平成16年)8月2日

発行 南伊豆町議会

編集 議会広報編集委員会

〒415-0392

静岡県賀茂郡南伊豆町下賀茂328-2

TEL 0558 - 62 - 6240

中木の海中散歩 涼味満点!!



主な内容

6月定例会	2~4
一般質問	5~13
一口メモ、議会の動き、くろ潮	14

平成16年 6月定例会

平成16年6月定例会は、6月8日から10日までの3日間開かれました。今定例会は一般会計補正予算、下田市・南伊豆町合併協議会設置議案の他、行財政改革特別委員会設置の追加議案計16件が上程され、14議案が原案どおり可決(認定・同意)、下田市・南伊豆町合併協議会設置議案を反対8賛成3で否決。一般会計補正予算は減額修正のうえ可決しました。

補正予算の概要(単位:千円)

下田市・南伊豆町合併協議会負担金9,842千円を減額修正して可決

会計区分	補正額	補正後総額
一般会計補正予算(第3号)	35,942	4,967,745
妻良漁業集落環境整備事業特別会計補正予算	1,000	210,725

専決処分・条例の制定・改正等について

条例

南伊豆町税賦課徴収条例の一部を改正する条例制定について
個人住民税関係
個人住民税を年額四千元にする。
生計同一妻への非課税措置を段階的に廃止(パート収入一〇〇万円を超える者)
老年者控除の廃止
六十五歳以上所得一千万円以下に適用。
所得税の課税最低額が二百八十五・五万円から二百五・三万円に下がる。

南伊豆町国民健康保険条例の一部を改正する条例制定について

平成十六年度南伊豆町一般会計補正予算

(第一号)

老人健康特別会計に五百九十六・三万円繰り入れ

平成十六年度南伊豆町老人保健

特別会計補正予算(第一号)

平成十六年度南伊豆町

一般会計補正予算(第二号)

合併推進協議会負担金八十五万円

南伊豆町印鑑条例の一部を改正する条例制定について

南伊豆町社会体育施設使用料徴収条例の一部を改正する条例制定について

新設した三浜小学校屋内運動場開放施設を追加するもの

南伊豆町国民健康保険条例の一部を改正する条例制定について

所得割を一〇〇分の六・六から一〇〇分の七・六に、資産割を一〇〇分の三七・〇から一〇〇分の四〇・四に改め、平均七%値上げするもの

南伊豆町非常勤消防団員に係る退職報奨金の支給に関する条例の一部を改正する条例制定について

退職報奨金を〇・四六%引き上げるもの

南伊豆町特別職の常勤の者の給料等の特例に関する条例制定について
町職員の飲酒人身事故をふまえ、特別職の給与のうち町長を三ヶ月一〇〇分の十に相当する額を、助役は一〇〇分の五に相当する額を減額するもの

同意

南伊豆町農業委員会委員の推薦について次の三人が議会において推せんされました
南伊豆町手石八八九 谷 明さん
南伊豆町上賀茂七二一 渡辺宏之さん
南伊豆町下賀茂五七七 竹本賢吉さん

修正可決

一般会計補正予算
下田市・南伊豆町合併協議会負担金
九百八十四万二千円を減額修正のうえ可決

否決

下田市・南伊豆町合併協議会の設置について

合併協議会設置議案討論

賛成

谷川次重

否決することは、合併しない選択をすることにはかならない。合併特別債を始め道路支援費・施設用途返しなどの支援策が用意されているこの時期を逃すともう支援制度はない。協議会は検討する機関で合併そのものを決議するものではない。十七年三月に結論を出すには今年いっぱいの立ち上げがリミットのため賛成する。

梅本和熙

一般質問では合併の是非の本質的議論はほとんどなく、提案までの過程に問題があると終始した。当局提示の財政見通しを批判し抜本的な行政改革を行えば十分自立でやれると抽象的主張をする議員がいるが、当局の提示した数値を批判するならば、批判する者の責任として具体的な数字を提示すべきだ。南伊豆町だけで住民ニーズに応えるだけの財源確保は困難だ。財源のないところで政策を論じても絵に描いた餅。共立湊病院は他市町村の意向もあり南伊豆町の考えのみでは解決できない。合併と切り離して議論すべき。

(次ページに続く)

● 反対

藤田喜代治

下田市との合併はスケールメリットが小さく、対等の立場も質問で確認したが極めて不安が大きすぎると判断し、反対する。

保坂好明

町長は住民による合併というが、これまでの進め方を見てきて、また、一般質問を通してそうは思えないこと。一市一町の枠組ではスケールメリットは考えられないことから反対する。

横嶋隆一

合意形成のプロセスがあまりにズサン。住民本位・議会と意志疎通を図りと言う答弁と全く違う実態で住民自治の見地を全く省みない極めてゆゆしき事態。いままでも通りの財務執行をした場合の財政見とおしでも財政再建団体に陥る要素はなく、行財政改革を一步一歩計画的に進めてゆけば合併しないでやって行けることは明らかだ。特例債に頼る合併は下田市・南伊豆町の一部の企業に利益はあっても、住民にメリットはない。住民と力をあわせ不況の困難を乗り越え自立の町づくりを進めるために見送るべき。

清水清一

住民の合併と言っているが、合併した場合共立湊病院がなくなる可能性が十分大きい。高齢者・若年者弱者の立場からみて困るしどうみてもおかしい。合併協議会に賛成しかねる。

漆田修

財政の問題は、南伊豆町だけでなく全国の市町村が抱える問題。自立改革の議論が全くなく、どうしようもないから合併という議論を支持するのは、特例債の恩恵にあずかる産業界の限られたところ。住民自治という合併の整合性のコンセプトも理解せずに、なにかに取りつかれたように合併を進めることに不安を感じる。

行政改革特別委員会について



委員長 藤田喜代治 議員



副委員長 清水清一 議員

議会最終日、行政改革特別委員会設置動議が提出され可決。立ち上げることが決まりました。構成は議員全員で、委員長に藤田喜代治議員・副委員長に清水清一議員が選出されました。

行政改革特別委員会は、六月三十日中央公民館で準備会を開きました。全議員十二人が出席、町の行政改革に向けた方針・日程を決めました。準備会では、同特別委員会における議員の費用弁償(日当等)の問題に着手、費用弁償をなくすために条例改正案を提出することを全会一致で決定。参院選後臨時議会を開いて同改正案を可決し、第一回特別委員会を開くことで合意しました。特別委は月二回のペースで開き、十二月定例議会までに議会独自の行政改革プランを策定する方針を決めました。



● 一般質問

町長に聞きました



石井福光 議員

想について審議内容と回数

石井 厚生省跡地を以前よりふるさと創生基金で購入したいと発言したが、賃貸の方法は無かったか。

町長 東海財務局は当初より有償打診で他の選択なし。

石井 購入について過疎債の利用は手続上時間が無く現状不可能と答弁しているが議会に何故説明しなかった。又跡地の利用計画と構

町長 総合的な町作りを考

え観光目的にとどまらず、巾広い審議をお願いした。回数については三回報告を受けたが内容は道の駅的活用を含めた産業振興。源泉を利用した福祉施設等、計画の審議をお願いした。

石井 ふるさと創世委員と策定委員は別の組織か。

町長 創世委員は町の役職で構成され、策定委員は事

務局で実践計画を考える組織だ。

石井 購入して半年が経過している。早急に構想を立て実施すべきと思う。



厚生省跡地

ジャングルパーク閉園

石井 平成十五年三月の閉園文書の中で貴町に於いて

売買に関する財政処理を行い新年度に入ったら直ぐ弊社有地を貴町に於いて買取する。其の金額は六億円と提示され現在金額の減額に言及し当初の約束通りの条件を処理しようとしている。当初の約束通りの条件とは

町長 六億円で買うとは言っていない。売買か賃貸か両方には併用と言った。土地売買の時、評価額も価格の中で出たこと、それが約束と言っているのか。

石井 結論として金額で放棄した構想も何も出来てない。現実この件について説明と謝罪すべきと思うが。

町長 謝罪する意思はない。

合併問題について

石井 九月議会の同僚議員の質問で地区説明会でアンケート等民意の把握に努めると答弁し今回の説明会の出席者六二九名。これには有権者の一割程度。これで合

併の方向を出した。合併に対する説明は不十分だ。故に質問も出ないのは当然である。又町長は一市二町合併解散後下田市とは合併しないと明言し今回の下田市との合併を推進しているのは整合性の無い無責任な発言だ。

町長 (具体的考えで回答なし)

石井 町長は四月二十八日午前の全員協後下市長に面会した。其の理由と内容

町長 市長に方向性だけは提案した。

石井 翌日の新聞で町長は全員協で下田市との合併を報告した後、経過を説明し合意に至ったと書かれた。

町長 市長に渡した文書を記者がコピーしたと思う。私は関知していないので勘弁してほしい。



漆田 修 議員

議員の兼業禁止について

漆田 住民・行政・議会は、痛み分けする中、議員定数削減のみならず兼業禁止も考慮すべきで、当該条項の解釈は？

条の要件は加味されたか。助役 施工能力を審査する機関であり九二条二項を加味した指名は行っていない。

町長 自治法九十二条二項では民法の請負以外広義に促え継続的な物品販売等も含み、同一行為をする法人とは自治体に対する請負が業務の主要部分を占め、その重要度が町の職務執行の公正適性を損なうおそれが類型的に高いと認められる法人をいう。準ずべきとは商業登記簿上代表でなくも実態がそれに類するもの。

漆田 経・審内容では当期完工高も記述され当町発注分が所定の割合に達する可否は判断されると思うが。助役 恐らくこの中に該当議員がいるとの前提で話していると、公選法をクリアした人達という考えで



業者の指名をやっている。

漆田 仮に該当した場合、其の議員を含む議会の議決の違法性の問題や、当局との長年の癒着問題等もついて廻る訳で、指名入札制度の改革は考えていないか？

助役 今後電子入札とが種々の方法も存るので改革の方向に進む様努力したい。

下田市との合併について

漆田 三市町の法定合併協解散後、自立改革議論に移行すべき処、なぜ今下田市と合併するのか。

町長 経常経費、特に人件費は単独を選択した場合削減出来ない。合併という形でお互いに我慢するなら可能性は高い。複数年度で財政再建は可能と考える。

漆田 其の選択をしなくても複数年度なら単独でも同

じだ。単独選択の財政シミュレーションは平成二十年迄記述されているが、基準財政需要額の表示に問題がある。過疎債起債の恩典も新自治体に於て過疎指定以外の起業の公平分担面でも問題では？

町長 歳出面での事業見直しは当然で継続事業は厳しい。過疎債は合併後の全市で受け取るのではなく旧該当地域が適用を受けると理解され自立促進計画の作業の一つである。

漆田 町長は懇談会で住民投票はノーで、東伊豆町の合併反対四七％は総意でなく、責任所在が不明確な為、意志決定機関の議会への提案と考えているのか。

町長 二つの投票の法的根拠の差は異なっている。あくまで議会制民主主義のもと、住民に選ばれた議会の場で提案しお願いしている。



合併問題

横嶋 住民懇談会の途中で下田市と合併の打合せを行い、議会が了承しないのに合併推進を発表した。今年度中の合併が心にあるため、形だけ懇談会を開き下準備を四月十五日にした。住民を欺いているのではないかと下田市議は、財政危機の為合併の優遇措置で庁舎・図書館等の建替えを行うべきとしている。町長は町民のことをどう考えているか。

町長 住民の声を聞き、議員と意思疎通を図り、判断したい。対等合併を念頭におき下田市と話してきた。

横嶋 自治体が財政難になった場合の基準、方策は。

町長 起債が二十％を超えた時財政管理団体に移行されるんじゃないかな。

横嶋 財政再建団体の適用は赤字が標準財政規模の二十％を超えた場合で、南伊



横嶋隆二 議員

共立湊病院と医療

横嶋 伊豆医療圏の中で共立湊病院の位置付けは、「病院建設検討委員会」では、アクセス・二次救急・診療科目増設を理由に移転の話が出ています。地域医療振興協会の理事長はアクセスが理由で患者が減少しているというがどう考える。

横嶋 コンサルタントは、病院は最終的に医者の人気度と言った。リスボン宣言

横嶋 合併したら守れないのは明らか。

町長 合併したら町長・議事会が無くなり責任の放棄だ。横嶋 合併したら町長・議事会が無くなり責任の放棄だ。町長 合併と病院の移転は別だ。

で患者の権利を守る取り組みが進んでいる。医療の質・医療機能評価こそすべきだ。この病院を守る気があるか。

町長 移転する気はない。

横嶋 合併したら町長・議事会が無くなり責任の放棄だ。

町長 合併と病院の移転は別だ。

横嶋 合併したら守れないのは明らか。



共立湊病院



谷川次重議員

意識改革への取り組み

谷川 組織というのは生き物。絶えず刺激を加えていないと惰性が始まる。三月の議会で、投書問題を通し、一つの課の問題でなく、全職員の問題とすべきと質問した。ところが職員の飲酒運転での事故が起こった。どのように原因を追及し、対応したか。

町長 このたびの事故については、本当に陳謝する次第。民間人なら、一つの次に何が来るかと予測し、注意し行動する。縦割り行政の流れの中で、その辺の教育が不適格だったのか、と反省している。五月十七日付で町職員の交通事故違反懲戒処分等要綱を改定して



いる。交通事故については、十四人の各課のリーダーと交通安全管理者等で組織する交通安全リーダー会を充足させている。講習会、誓約書の提出、反復継続等により真剣に取り組んでいく。

谷川 交通事故を通して、組織をもっと掘り下げるような見解は。例えば、群馬県草津町では、「公営観光事業部」を「千客万来事業部」「長野県中野市では「売れる農業推進室」と名づけて自分たちは今このことをやる」と認識している。伊豆長岡町役場は全員がお客さまの方を向こうと机の配置を変えた。富士宮の市長は群馬県太田市の市長を呼んで研修をやった。



長野県中野市「売れる農業推進室」ホームページより

町長 ありがたい意見。研修会等については、講師をお願いしながらの勉強を考えている。

谷川 実際現場でやっているのは課長。職員の教育のやりかたとか、年間の目標等を聞きたい。

税務課長 数値目標を設定し年間計画の進行管理を行う。苦情等があった場合は、早急にミーティングを行い、その原因を話し合い課全員で対処する。今年も税の徴収率にこだわりたい。課税係が多忙の時は納税係が協力し経費削減に努めたい。



町長 ありがたい意見。研修会等については、講師をお願いしながらの勉強を考えている。

谷川 今の変化の時代。今求められているニーズに全力で取り組んでいけるように、町長の指導を要望する。

下田市と一市一町の合併について

渡辺 七市町村、六市町村、そして河津町を入れた一市二町の合併が解散破綻した。行政側は問題に触れる事なく二十三地区の説明会を開き、終了後、町長の考え、方向が合併だと議会に説明があった。なぜ町長は地区懇の時合併の考えを打ち出し臨まなかったか。

町長 議会との意思の疎通又内容が下田市との比較という点から最終的にと思いついた。

渡辺 町のリーダーとして町民に合併推進を明確にした上で説明し理解を求めるときであった。又下田市の長短所がどこにあるのか。

町長 指導力面からと言う事ですけど失敗は許されないう大前提で、河津が抜けた中、財政について突っ込んだ話しがされてなかったのが慎重に進めたいので最初から前にだせなかった。又



合併協議会ホームページ



渡辺嘉郎議員

賀茂地区 交通災害共済組合について

渡辺 この保険の現在の運営状況又今後の運営状況は。

町長 先の説明の通り事務方の案がでた時点で慎重に七市町村で進めてゆく。

企画課長 現在の状況及び実績は加入者七千九名全体の六十九%で七市町村でトップ。利用率は低いのが現状で、組合四十七年発足当時の十二%から現在五十四%の加入率に推移してい

渡辺 五百円の掛捨て保険で率が良いので廃止でなく残す方向で進めるべき。

町長 先の説明の通り事務方の案がでた時点で慎重に七市町村で進めてゆく。

町長 先の説明の通り事務方の案がでた時点で慎重に七市町村で進めてゆく。



小中学生の通学時の安全対策について

渡辺 全国で青少年の非行いじめ、交通事故、拉致又児童虐待、殺人と山積している青少年問題の中、我が町も少子化問題が重要視されている。訊だが子育て支援事業の一環で、カバンに付ける一〇番ブザーを、防犯面で助成すべき。

教育長 大事な事は充分承知している。保護者行政側と検討し子供達を守る意味からも議会の支援も仰ぎながら考えていきたい。

渡辺 子供達は、国・地域の宝である。大人が理解し子育て支援を願う。



鈴木史鶴哉議員

一市一町の合併について

鈴木 平成十四年五月、賀茂地区一市五町一村の合併検討委員会で始まった合併への取り組みは、その後、下田市・河津町・南伊豆町一市二町による合併協議会の解散、そして、当町に於ては三月から四月にかけての地区懇談会の開催という新たな展開となり、この間約二年、今までの経過を振り返ってみると、この合併問題がいかに重要で難問題であるかということが、今後合併に取り組む当町は、この二年間の流れを決して無駄にしないでほしい。歴史的に見ても半世紀に一度有るか無いかの合併問題は、町を挙げて取り組むべき最重要課題である。第二十七

次地方制度調査会の答申等、合併を取り巻く状況が変わりつつある中で、町長は合併の方向性を明らかにして、町民に対し十分な説明と議論を交した上で理解を得ることが必要だったのでないか。



合併の単独

町長 南伊豆町は少子高齢化、そして、人口減が顕著である。第二十七次地方制度調査会の答申を見据えた中、地区懇談会の開催等により、基本的に残された下田市と南伊豆町は単独か合併かということになるのかと思うが、今までの流れの中から、合併という言葉を使わなくても、町長の政治姿勢として、一つの方向性は堅持しなければいけないということである。

鈴木 次に国に於ける合併の推進、あるいは三位一体の改革など財政を取り巻く事情が大きく変わろうとしている。厳しい財政状況の中で将来の町づくりに向けた主要事業の実施見通しは、

町長 三位一体改革の影響を受け、一部計画変更もある。継続事業等毎年財政状況による見直しを行い、実施年度の繰り下げ等柔軟に対応し、事業の重点化による歳出削減も考えている。



保坂好明議員

合併問題

保坂 多様化する住民の要求にこたえる事が可能な人的体制の整備と大規模になる事により効率化する財政運営の視点から、自律し得る自治体を目指す政府の進める合併は反対する事はない。そこで地区懇の出席数六二九名から、大所高所としての様に判断したのか？

町長 地区懇を開くのに、広報と回覧板で流し最大限の努力をした。

保坂 同じ新聞から、地区懇では町民の要望を踏まえとした民意を反映する発言をし、一方ではアンケートや住民投票はしないとしたり、民意を尊重しない発言に矛盾を感じるが？

町長 常に財政再建を目標に、比較する形になったので、町民の方々には少し理解ができなかったのかな。

保坂 住民投票につき町長は、議会制をとっているのに、合併だけが何故直接民主主義をするのかと答えて



地区懇談会

いるが、町民あつてのこの町である事からすれば、住民投票をするべき。また合併に対し、議員の方々と意思の疎通を図りながら慎重に進めたいと述べているが、実態は四月二十八日に下田市との合併を明言し、五月三十一日に合併について当局説明を開いただけ。議員と意思の疎通を図るとはどのような事か。

町長 合併でガタガタしている。下田との打ち合せとかで日程的に調整がつかなかった。

保坂 この様な進め方で町長の責任として良いと思われるのか？

遊休農地対策について

鈴木 高齢化、そして、過疎化に伴う担い手不足等による農業の衰退と、最近特に農地の資産的保有傾向が強くなり、不在地主が増え、遊休農地が多く見られる。荒廃地化している所もあり、周辺地域へ様々な影響を及ぼす。景観上、防災面からも対策が必要と思う。現状と対策は。

町長 遊休農地は田畑等で約八十八ha、遊休農地率は約三十%だ。今後各地区農業委員、認定農業者、農業振興会による農地の利用集積等、又各種団体とも連携しながら遊休農地の解消に努めてゆく。



荒廃した遊休農地

町長 本当にきつい質問。平成十七年三月までに県知事へ合併の申請を出さないと、特例債の発行だとか、かなりの制約を受ける。

になる。

保坂 その答弁では理解できない。では町長の考えている合併の進め方は、どのような概念なのか？

保坂 質問に答えてない。町長 住民本意です。

町長 合併に対して財政再建。目的は公務員の削減。要するに人件費の…

保坂 住民本意なのか？町長単独でいくのか？役人主導なのかを聞いています。

町長 最後には町民の利益

保坂 合併は住民の意思で決める事が大切。百年の大计からこの町がどうなるのか。行政や議会だけで決めるのではなく、住民と一緒に考える事が大切。一市二町の合併が破綻してから今までに、町長がとってきた姿勢と開催した地区懇の内容の結果から、民意の反映をしているとしたら、合併の本旨とは全く次元の異なる事だと理解する。





藤田喜代治議員

市町村合併について

藤田 最初に二つのことを主張します。一つは、再生の町、福岡県赤池町の話です。町は苦しい財政事情を町民に説明し、理解を求めするために、幹部は個別訪問をし、住民も我慢してほしいと頭を下げて回った。説明すれば、大体は納得してもらえたそうです。このことは、町と町民の間にかかりとした信頼関係が構築されたという証であります。もう一つは、合併の有り様です。我が町は昭和三十年に、南賀六ヶ村が合併した歴史があります。大同団結による大きな合併であったし、今日まで五十年の歩みできてきた。当時、大同団結できた大きな理由の一

つが、一対一の合併でなく、六ヶ村の合併であったことに注目すべきであると同時に、先人達の先見性や努力や尽力に敬意を表します。この二つについて何かあればご答弁願います。

町長 今の話を聞いて、町長が個別訪問をしたということ、まことに頭が下がる。信頼関係を構築するということ、尊敬し、本当にすばらしい町長だと思つ。それから、昭和三十年の六ヶ村の合併の話ですが、私は最初から大きな合併ということを書いてきた。結果的に一対一となり、合併の難しさを肌を感じています。

藤田 市町村合併地区懇談会について、有意義であったか疑問がある。下田市との合併推進につき、出席住民より町長の考えを明確にすべしとの質問に、表明を、政治的駆け引きとの理由で拒否し続けたのは。又、対等合併と言つが根拠は。

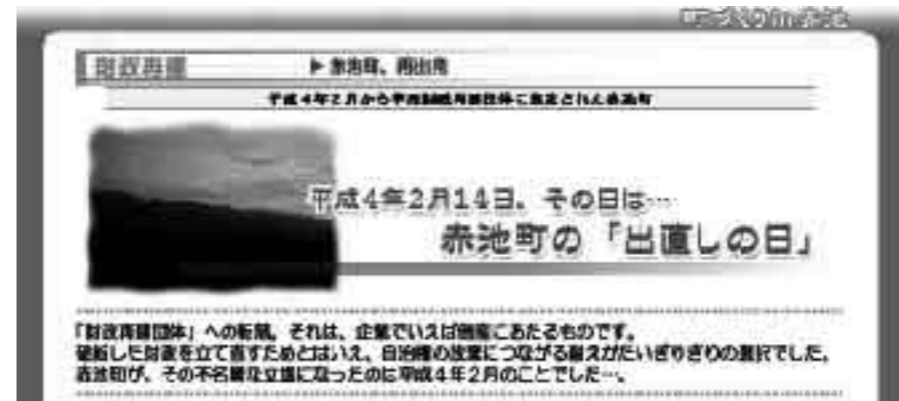
町長 町民が対等合併を望んでおりますし、行財政改革がありますので、その辺はご理解願いたい。

藤田 的確な答弁が無理の様ですので次へ進めます。合併問題については、議会や広報で、議会及び住民の皆様には十分説明を行い、慎

重に協力を願つてやってゆくと発言してきているが、ウソとしか言い様がない。又、波勝のお猿供養祭において、町長挨拶の中で、来賓の県知事に対し、「合併のため当町の町議会議員を説得して下さい。」との発言は、驚愕もし、恥かしい思いでありました。

政治姿勢について

藤田 昨年十二月定例会で「議会とは車の両輪でやってゆく。もし気が付いた点があったら注意して下さい」と確約の答弁をいただいた。今日までの状況は言動不一致としか言い様がない。約束を守ってもらえないので答弁はおりません。



「赤池町ホームページ」より <http://www.town.akaike.lg.jp/akaike/index.htm>

清水 メリットは今ないと言つたんですね。

町長 下田の方向性との温度差があり、私はまちづくり、サービス事業については慎重に発言し穏やかにやっていきたい。

清水 特例債で県へ行って要望する内容は。

町長 石廊崎遊歩道、健康福祉センター、法定協の中で道路問題とか、今は2件しか見当たらない。

清水 下田市は特例債を使用しているが、南伊豆町は何を考えているか。

町長 特例債は借金ですから、皆様方が提案し下田市が認め県の認可を受けたい。これを機会に請求していく。

清水 町の各課での課題は多数あるのに、町長は今年県庁へ二回しか陳情していない。これまでなぜ陳情に行く回数が多いのか。

町長 一回行くと費用もかかる。要望をもう一度把握してやりたい。

合併問題



清水清一議員

清水 地区懇で、「合併しても地獄、しなくても地獄」と町長は発言しているが、私には南伊豆町に住むなど町長は言っているように感じるが。

町長 ちょっとときつ過ぎたかなと思つが、たとえだ。

清水 議員に報告もせず、意思の疎通を図らず決定し、町長は責任逃れで議員が悪いと言っているが、議員との意思の疎通をこれからどのようにしていくのか。

町長 町政では車の両輪でやらざるを得ない、いややります。ということだ。

清水 合併を下田市と対等の立場で言っているが、下田より高い位置で話を進める考えはないのか。

町長 私は副会長ということで南伊豆の将来を考え主張していくと考えている。

清水 両市町の財政状況、他の状況を判断し、町は高い位置に立てるのに自分から放棄している感じた。

任意合併協で決まり発表できる町長の政治的駆け引きで何かありますか。

町長 助役以下職員に基礎的な話し合いをする提案をしたのが政治的成果だ。



議会の動き

- 4月28日 全員協議会
- 5月 9日 中木慰霊祭
 5月12日 地域振興活性化事業報告会
 5月12日 南豆衛生プラント組合議会全員協議会
 5月15日 第65回黒船祭
 5月19日 例月出納監査
 5月19日 賀茂郡議長会
 5月20日 賀茂郡監査委員連絡会総会
 5月21日 商工会青年部総会
 5月25日 自衛隊協力会総会
 5月25日 地方財源危機突破総決起大会
 5月26日 国保運営協議会
 5月26日 南伊豆町商工会通常総会
 5月27日 観光協会通常総会
 5月27日 旅館組合通常総会
 5月27日 交通安全協会南伊豆分会総会
 5月28日 社会福祉協議会理事会・評議委員会
 5月29日 市町村合併を考える全国レシーンポジュム
 5月31日 議会運営委員会
 5月31日 全員協議会
- 6月 1日 ~ 2日 町村議会議長研修会
 6月 3日 地議連・定期総会及び政策研修会
 6月 3日 図書館協議会
 6月 7日 伊豆東海岸鉄道整備促進協議会総会
 6月 8日 ~ 10日 6月定例町議会
 6月10日 議会だより編集委員会
 6月18日 南豆衛生プラント組合議会6月臨時会
 6月18日 下田警察署管内防犯協会総会
 6月19日 ~ 20日 海中クリーン作戦(中木)
 6月23日 老人クラブ輪投げ大会
 6月24日 例月出納監査
 6月25日 水道会計決算監査
 6月26日 伊豆市合併記念式典
 6月28日 伊豆地域観光活性化協議会総会
 6月30日 行財政改革特別委員会準備会
- 7月 1日 伊豆縦貫道河津・下田建設促進期成同盟会総会
 7月 2日 伊豆ナンバー創設促進協議会総会
 7月 6日 社会福祉協議会理事会
 7月 6日 議会だより編集委員会
 7月 7日 民生委員推薦会
 7月 9日 東伊豆道路建設促進期成同盟会総会
 7月13日 自然ふれあいパーク整備検討委員会
 7月15日 第2回臨時議会
 7月15日 行財政改革特別委員会
 7月17日 弓ヶ浜海開き
 7月18日 黒潮和太鼓祭り
 7月20日 例月出納監査
 7月21日 議会だより編集委員会
 7月23日 柑橘試験場伊豆分場後援会総会
 7月23日 東京大学下賀茂寮開寮式
 7月26日 一般会計等決算監査
 7月26日 議会だより編集委員会
 7月27日 南豆衛生プラント組合全員協議会
 7月27日 行財政改革特別委員会
 7月28日 一般会計等決算監査
 7月29日 南伊豆総合計算センター組合議会7月定例会
 7月29日 監査委員研修会
 7月29日 伊豆斎場組合議会7月定例会
 7月29日 賀茂郡議長会
 7月30日 一般会計等決算監査

皆さまの声をお待ちしております

皆さまから届けられました貴重な意見・提案等は、「いでゆ」のコーナーに掲載させていただきます。

〒415-0392

南伊豆町下賀茂328-2

南伊豆町議会事務局内

広報編集委員会

TEL・FAX 62-6240

議会10メモ

財政再建団体

過去十年間、全国で一丁だけ

市町村は、赤字額が一

定規模（標準財政規模の

二十％）を超えると財政

再建団体（会社でいうと

破産）となります。財政

の建て直しを行うには、地

方財政再建特別措置法（会

社でいうと更正法）にも

とづき、同法を準用して

行うものと、他は自力で

赤字を解消しようとする

ものがあります。前者を

準用財政再建団体、後者

を自主再建と呼びます。

過去十年間全国三千二

百余の市町村のうち、財

政再建団体になったとこ

ろは、福岡県赤池町一町

だけしかありません。

南伊豆町の場合、財政

再建団体適用の目安は五

億七千万円（平成十五年

度決算見込み）ですが、

いまままで通りの運営をし

た場合の財政見通し（平

成十六年二月財政資料）

でも財政再建団体にはな

りません。真剣な行財政

改革を実行すれば、将来

の発展につなげられます。



町議会の改選から一年。

議会は九月から始まって

丁度一巡したところ。

一般質問議員の割合は

格段に増え、今回も議場の

十一人中九人が一般質問

に登壇。かつてない活気。

おりしも合併問題のさ

なか、議論白熱は当然とい

えば当然ですが、法定協議

会設置議案審議にあたり、

下田市・河津町・南伊豆町

合併協議会の解散、住民懇
 談会、議会議論などからど
 のような教訓を導き出し
 て行くのが大きな焦点
 となりました。

議会傍聴席は三日間と

も満席、入りきれずに帰る

人も出るほどの関心の高さ。

議会内外でも広く話題に

なりました。

この議会の熱気を、住民

のみなさんにありのまま

伝えたいという編集委員

一同の思い。

行財政改革特別委員会

も立ち上がり、議会もしば

らくの間暑い夏が続いま

す。(よ)